



すずき けいじ
鈴木 桂二 氏

第7回 1991年度 高柳記念賞

「テレビジョン工学に関する研究業績」

鈴木桂二氏は、テレビジョン工学の研究者として、以下に列挙する多くの独創的な研究業績をあげ、テレビジョン技術の発展に大きく貢献された。

- (1) テレビジョン放送の発展には超短波技術が不可欠であることをいち早く認識し、極超短波信号発生器、極超短波に於ける各種測定器、空中線等の研究成果を挙げ、わが国の超短波技術の発展に大きく貢献した。
- (2) 東名阪テレビジョンマイクロ波中継回線の建設にあたり、全 TWT 方式による高出力 3 段増幅器を開発し、中継間隔を 100km 以上に拡大した。この成果はその後のテレビ全国回線網の整備に大きな貢献を果たした。
- (3) ローマオリンピックでの短波によるテレビジョン駒どり伝送方式の開発では、低速走査とウォブリングビームスキャンにより得られた画像を 2ch 伝送する方式により、不安定な短波伝送路を用いた駒どり画像の国際伝送に成功した。
- (4) 東京オリンピックテレビ衛星中継では、プロジェクトを指導推進すると同時に「正極同期ノンリエア エンファシス方式」を考案し、シンコム 3 号によるテレビジョン国際中継を成功させた。
- (5) テレビジョンの磁気録画に於いても多くの業績を残しており、色度信号線順次方式 VTR、スローモーション VTR、1.5 型ヘッド VTR など放送用 VTR の分野でも先駆的な研究成果を挙げた。このうち 1.5 ヘッド型 VTR については現在世界の放送局やプロダクションで最も多く使われている Type C 放送用 VTR に採用されている。

以上のように、同氏はテレビジョン工学の分野に於いてその黎明期から先駆的な研究開発を推進し、数多くの独創的な研究業績を挙げられるとともに、テレビジョン放送発展のための指導力を発揮され、日本のテレビジョン技術を国際的に最高の水準まで高めることに大きく貢献した。